

# 世界とつながる教室

JICAの開発教育支援

このコーナーでは、各地の教育委員会や学校、NGOなどによる開発教育・国際理解教育の実践・普及を支援するJICAのさまざまな取り組みを紹介します。



## 「開発教育」の必要性を実感

今まで自分が行ってきた国際理解教育は不十分だった。2006年4月から1年間、埼玉県教育委員会からJICA地球ひろばに派遣された杉田和明さんは、これまでの自身の授業を振り返り、大切なものが抜け落ちていたことに気付いた。

埼玉県の高校の英語教員として、10年以上、異文化理解や国際情勢について教えてきたが、取り上げるのは欧米諸国が中心で、開発途上国に触れたことは一度もなかった。「恥ずかしながら、私自身、途上国への関心が薄かった」と苦笑いする杉田さん。だが、

JICAの開発教育支援事業に携わったことで、途上国の深刻な課題や優れている点、日本人の生活が途上国の人々によって支えられていることを初めて認識し、それらを子どもたちに伝える必要性を強く感じたという。

地球ひろばでは、「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」の運営を担当し、「途上国のために何かしたい」とつづる子どもたちの真つすぐな心に感銘を受けた。また、地球ひろばの「地球案内人」や「国際協力出前講座」の講師らの言葉に熱心に耳を傾ける生徒たちの姿も印象的で、生徒の興味をとらえ主体性を引き出す彼らの手法は、授業を行う教員として学ぶべき点

## 第1回 「地球ひろばで見つけた大切なもの」 杉田和明さん

高校教員

杉田和明さん

JICAの開発教育支援の拠点である「JICA地球ひろば」東京都渋谷区広尾は、昨年度、初めて教育委員会からの研修員を受け入れた。1年間の研修を通して、開発教育の可能性を見いだした埼玉県の高校教員、杉田和明さんは、地球ひろばで何を学び、それらの経験を学校現場でどう生かしていくのか。

「学校に戻ったら、まずはできることから始めたい」と言う。途上国での経験が豊富な青年海外協力隊員などを招いて実施する国際協力出前講座やエッセイコンテストなどを活用し、授業の中で開発教育を実践していく予定だ。そして「将来は学内だけでなく他校や地域社会全体に開発教育が広まれば」と願う。

「学校に戻ったら、まずはできることから始めたい」と言う。途上国での経験が豊富な青年海外協力隊員などを招いて実施する国際協力出前講座やエッセイコンテストなどを活用し、授業の中で開発教育を実践していく予定だ。そして「将来は学内だけでなく他校や地域社会全体に開発教育が広まれば」と願う。



2007年3月4日に行われた「JICA教師海外研修全体実践報告会（東京都・山梨県の参加者対象）」では、海外研修に参加した教員が、途上国での体験を教育現場でどのように生かしているかを報告するとともに成果や問題点などを話し合った。杉田さん（後方中央）は、ベトナムの研修に参加したグループのファシリテーターを務めた。

開発教育支援事業を積極的に広報したり、関係者のネットワーク構築支援を継続してほしい。私も、教育現場のニーズをフィードバックし、よりよい連携を図りたい。

地球ひろばの松元隆さんも「埼玉県に戻ってからJICAを大いに活用してほしい」と話し、開発教育に関するウェブサイトを充実させるなど、教員が開発教育を実践しやすい環境を整える支援に意欲を見せる。

地球ひろばでは、07年度も埼玉県教育委員会からの研修員を受け入れており、開発教育を促進するためのさまざまな支援事業に当たっている。より多くの教員が開発教育の必要性を理解し、積極的に実践できるよう、今後もJICAと教育委員会が連携を強化しサポートしていく。

## JICAの開発教育支援に携わる教員たち

教育委員会とJICAが連携し、JICAが教員を受け入れる取り組みはほかの国内機関でも行われている。教員が、JICAのさまざまな開発教育支援事業に携わることで、国際協力への理解を深めるとともに、学校現場における開発教育の実践を促進していくことが狙いだ。

JICA横浜は、2005年度から神奈川県教育委員会の「派遣体験研修」を通して、毎年1人、研修生を受け入れている。派遣された教員は、「国際協力出前講座」などの学校訪問プログラムや、開発教育の指導者が集う「開発教育セミナー」などの企画・運営補助を担当する。

また、JICA札幌も、同年度から北海道教育委員会の「教員長期社会体験研修」の参加者を受け入れている。06年度に派遣された高校教員、小幡健一さんは、開発教育支援事業や途上国と日本の青年が交流する「青年招へい事業（現「青年研修事業」）などに携わったほか、「教師海外研修」に同行した。「遠い存在だった途上国が身近になった。これからは子どもたちとともに国際協力を実践していきたい」と語っている。

今年度も、JICA横浜は1人、JICA札幌では2人の教員を受け入れている。



杉田さんは、教員としての視点を生かし、授業で利用しやすい小中学生向けの開発教育教材の作成に携わった。教材は5,000部発行され、地球ひろばで希望者に配布している。



教師海外研修に同行し、ベトナムの子どもの施設を訪れた杉田さん。「国際協力の現場を見る貴重な機会となった」